

慢性腰痛に対する AKA-博田法

住田 憲是*

Key words : 関節運動学的アプローチ (arthrokinematic approach), AKA-博田法 (AKA-Hakata method), 慢性腰痛 (chronic low back pain), 関節機能異常 (joint dysfunction), 単純性仙腸関節炎 (simple sacroiliac arthritis), 仙腸関節炎特殊型 (complex sacroiliac arthritis), 関節神経学 (articular neurology)

Abstract 関節運動学的アプローチ (AKA-博田法：以下, AKA) は, 関節原性の痛みを正確に診断できる診断的治療法であり, 手技により行う. これを用いて慢性腰痛を診断した結果, 大部分が仙腸関節原性であることがわかった. 従来画像診断で椎間板ヘルニアなどに分類されていた慢性腰痛が仙腸関節原性であるものが多く, 神経障害の症状として診断されやすい下肢痛の多くも仙腸関節原性の関連痛であることも明らかにされた. そして仙腸関節原性の慢性腰痛には, AKA が早期に患者を疼痛から解放する治療手段であることも証明された. このことから慢性腰痛の診断治療には AKA が必須のものであることが明白となった. この仙腸関節原性の疼痛に対して, 現在, 整形外科医の認識が低いことが, 運動器の痛みの臨床において多くの混乱をきたしている元凶と思われる. 腰痛に対して AKA を行った結果, 急性期と慢性期により治療効果に差があり, 急性期に AKA を施行することが大切と思われる.

概 略

関節運動学的アプローチ (arthrokinematic approach ; AKA) -博田法 (Hakata method) (AKA-博田法 ; 以下, AKA) は, 「関節運動学に基づき, 関節神経学を考慮して, 関節の遊び, 関節面の滑り, 回転, 回旋などの関節包内運動の異常を治療する方法, および関節面の運動を誘導する方法である」と定義され¹⁾, 博田により開発された. 関節内部の動きを研究する学問である関節運動学の要素のなかで, 関節の遊び²⁾, 関節ゆるみの位置³⁾⁴⁾, 凹凸の法則⁵⁾などを利用し行う. AKA は本来, 関節包内運動を無視した従来の運動療法の弊害を補う技術として開発された. しかし, 関節

面の動きの改善が痛みに著効を示すことがわかり, 痛みの治療技術としても発達した. 今回はこの痛みの分野についてのみ述べる. 定義の如く AKA は, 個々の関節の包内運動を治す技術として作られ, 痛みの治療そのものを目指したものではない. そのことがかえって, 痛みの治療を第一目的とした他の徒手治療に比し, 運動器の痛みの原因に対してその真実に近づけたものと思われる. 痛みをとることのみを目的とすると, 関節にアプローチし, その治療が不完全なために痛みがとれないと, 直ちに筋肉や神経などにアプローチして痛みをとろうとすることが多いため, 関節か, 筋肉か, 神経か, 何が根本原因かを確定できない. また AKA は個々の関節を, 一つ一つ確実に治療し, 他の手技療法のように, 同時に多関節が動いてしまうことがないため, どの関節の障害なのかを正確に診断できる. このように AKA は関節原

* Kazuyoshi SUMITA, 〒171-0032 東京都豊島区雑司ヶ谷2-4-1 望クリニック整形外科, 院長

表 1.
関節包内運動の障害⁸⁾

I. 関節包内の原因
1. 器質的変化
1) 関節面の癒合
2) 関節面の破壊, 変形
3) 関節包・靭帯の断裂, ゆるみ
4) 関節包・靭帯の癒着, 短縮
2. 機能的変化
一次性関節機能異常
II. 関節包外の原因
二次性関節機能異常
1. 器質的変化
1) 骨アラインメントの異常
骨折後変形, 手術, 下肢長差など
2) 筋のアンバランス
短縮, 断裂, 麻痺など
2. 機能的変化
筋スパズムなど

表 2. AKA と関節運動学および治療対象⁸⁾

AKA 技術	目的	対象疾患	利用される関節運動学の要素
滑り法 離開法 軸回旋法	関節包内運動異常の治療 関節包・靭帯の伸張	有痛性疾患 外傷後の痛み 各種疾患に合併する痛み 関節拘縮	副運動 関節の遊び 最大ゆるみの位置
他動構成運動			
伸張なし	関節可動域の維持 神経筋再教育	骨・関節障害 筋疾患 神経系障害 その他	構成運動 滑り 凸の法則 凹の法則 軸回旋
伸張あり	筋・腱の伸張 関節包外靭帯の伸張	関節拘縮 (筋・腱などの短縮)	
抵抗構成運動 骨運動 介助 抵抗	構成運動再教育 神経筋再教育 筋力増強 筋力テスト	骨・関節障害 筋疾患 神経系障害	

性の痛みの診断, 治療に必須のものといえる。

1. 関節包内運動の異常

関節包内における関節面の運動は, 表 1 に示すように, 関節包内および関節包外の原因によって障害される⁸⁾。関節機能異常は, 関節包内に何ら器質的変化が見られない状態で起こり, これは関節の機能障害と考えられ, 症状として痛みなどを生ずる²⁾。AKA を用いて四肢および体幹の痛みの原因を診断するとこれが最も多いことがわかる。

2. AKA の治療対象

AKA の治療対象は表 2⁸⁾の如く多岐にわたるが, その技術のなかで痛みに対するものは, 関節

面の滑り法, 離開法などがある。

3. 有痛性疾患の治療

AKA に反応する関節原性の痛み, しびれの原因は, 関節機能異常, 単純性関節炎, 関節炎特殊型に分類される¹⁾。

1) 関節機能異常

関節機能異常 (joint dysfunction) の症状は, 痛み, 運動制限, しびれなどの感覚異常, 筋緊張などである⁸⁾。痛みは障害関節の周辺に現れるものと, 遠隔部に現れる関連痛とがある。関節原性の痛みの卑近な例は小児の肘内障である。何ら器質的異常がなくても起こり, 手を引っ張られたこと

